

子どもの「遊び」について考えよう

8月から、「読書を楽しむ」家庭教育力の再生について考えました。学校週5日制時代の3つ目のキーワードとして「子どもの遊び」について、今月から2回にわたって考えたいと思います。

わが国の「児童憲章」(昭和26年)や国連の「児童の権利宣言」(昭和34年)は、子どもの「遊ぶ権利」をはっきりうたっています。何故でしょうか。

子どもたちは「群れて遊ぶ」ことによって多くのものを学んでいるからです。

子どもの遊びが変ってきた

昭和50年代から大きく変わってきています。どんなに変ってきているのか考えてみましょう。

- ・群れをつくっていた遊びから孤独の遊びへ
- ・活動的な遊びから静かな遊びへ
- ・自発的な遊びから受身の遊びへ
- ・手づくりの遊びから既製品の遊び道具へ
- ・屋外の遊びから屋内の遊びへ

遊びから学ぶもの

子どもたちが無心になって遊ぶとき、そこには子どもたちだけの世界があり、それは人間の精神の芽生える土壌と

しさ、他者への思いやり、友情、責任感、自己犠牲の大切さなどを身につけていきます。

子どもたちが社会性を身につけるためには、活動的で勇気と決断を必要とする集団遊びが必要です。



② 体力や運動神経の発達に役立ちます

幼児期から小学生の時期の子どもたちは、戸外で穴を掘ったり、石ころを並べたり、ひもを結ぶという単純な遊びにも熱中するものです。また、ビー玉、めんこ、コマ、おはじき、お手玉、折り紙、あやとりなど昔から子どもたちの世界に伝承されているいわゆる伝承遊びも比較的好みます。これらの遊びは、手先や足先の器用さ、運動感覚の錬磨に結びつくものばかりです。

鬼ごっこで走り回ってへとへとになっていても、鬼が追いかけてくれば、また全力で逃げなくてはなりません。そうして夢中になって遊んでいるうちに、子どもたちはいろいろな運動神経を発達させ、体力を養い、健康を増進させています。

③ 創造性を高めます

草花で首飾りを作ったり、笹や木の葉で舟を作って浮かべてみたり、若葉を唇に当てて音を出したり、木の实や貝がらで人形を作ったりといったように、自然物はそのまま子どもたちの創造的な遊び道具になります。

このように自然の中から遊ぶ材料を探したり、自分たちの手で遊び道具を作ったりして自然を相手に遊んでいるうちに、豊かな創造力が育っていくのです。

④ 知的能力を伸ばします

例えばごっこ遊びをする中で、ことばの使い方や計算を覚えたり、かるた取りやトランプ遊びで文字を覚えたりします。また、タコ作りで小刀の使い方、竹の削り方や曲げ

方、重心のとり方、たわみ具合と糸の調整の仕方などいろいろなことを心と体で実感しながら学びます。

このように、子どもたちは遊びを通して日常生活での体験の範囲が拡大され、いろいろな知識が身につく、理解力、推理力、思考力などが芽生えてきます。そして、それらの様々な経験が有機的に広がっていったら、自然と知的能力が恵まれていきます。

⑤ 心を開放します

子どもたちは、日ごろの生活の中で、いろいろな情報や欲求によって抑圧されています。こうした子どもたちの欲求不満や緊張や心的葛藤などを解消し、心のバランスを取り戻すことは心身を健康に保つ上で大切なことです。

子どもたちは遊びに熱中することによってこれらの心のストレスを解消し、精神のバランスを安定させることができるのです。

提供

学校週5日制時代を考える会
ご意見をお寄せください。
事務局 ☎(43) 4416